

結膜下出血

「人から眼が赤いと言われ鏡を見たら真っ赤になっていることに気付いた。痛くも痒くもない、目やにも出ない、見にくくもない、いったいこれは何だ？」とびっくりしたことはないでしょうか。これは結膜下出血といって、結膜の血管が破れて白目が真っ赤になった状態です。中には脳の病気かと思われ受診されることがありますがそうではありません。起こりやすいのは高血圧、動脈硬化、糖尿病などの全身疾患をお持ちの方、また抗血小板薬や抗凝固剤などいわゆる「血液をさらさらにする薬」を飲まれている方などですが、全身の病気がなくとも高齢になると結膜弛緩（しかん）症（白目のたるみ）になり出血しやすくなります。それ以外にもくしゃみやせき、深酒、夜更かしなどが誘因となることがあります。出血は通常1～3週間程度で自然吸収されますので心配はありませんが、自己診断はせず最寄りの眼科医に診てもらうことをお勧めします。

平成28年9月

武田 純爾